# 戸別収集モデル事業のアンケート調査に基づく検証・分析

## １　ごみ量の減量について

もえるごみの量については、『減った』と『少し減った』が合わせて 9.2%になっており、戸別収集がごみ減量に一定の効果があったと考えられます。また、責任をもってごみを出す、ごみの分別を意識するといった意識の向上が図られ、戸別収集によって不適正排出の抑制が図られたことが考えられます。

## ２　戸別収集の課題

カラス等の被害が増えたことやポリバケツ等の購入が必要になったことが、戸別収集の『良くない』、『あまり良くない』理由として多く挙がっています。ごみを袋のまま出したりネットを被せたりするだけではカラス等による被害を確実に防ぐことができず、ポリバケツ等の購入が必要になることから、カラス等の被害対策について十分周知する必要があると考えられます。

## ３　もえるごみを戸別収集、資源を集積所収集することへの満足度

『満足している』が 67.2%を占め、おおむね現在の収集体制に満足している結果となっています。戸別収集は、戸建て住宅においては自宅の敷地内にもえるごみを出すようになり集積所に運ばずに済むようになったこと、集合住宅においては集合住宅ごとに集積所を設置していただいたことで集積所が近くなったことが『満足している』に反映していると考えられます。

## ４　今後の戸別収集のあり方

『今後も継続してほしい』が『集積所収集に戻してほしい』に比べ 42 ポイントも高く戸別収集の継続を望む声が多くなっています。ごみを集積所に運ばずに済むようになったこと、集積所が近くなったこと等によって利便性が向上したためであると考えられます。戸別収集によってごみ収集サービスが向上し、戸別収集が市民のごみ出しに有効であることがわかります。今後、他の地区に戸別収集を拡大した場合も同様の結果が得られることが予想され、市民サービスの向上には戸別収集が効果的であることが認められます。